

【様式】

平成29年度 学校マネジメントシート

学校名 ( 杉の子特別支援学校 本校 )

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		一人ひとりの可能性を伸ばし、生きる力を育む学校をめざす
(2)	育みたい 児童生徒像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自立や社会参加をめざし、主体的に取り組む子ども</li> <li>・ 自己肯定感や他者を思いやる気持ちが持てるなど、命を大切にし、人権感覚あふれる子ども</li> </ul>
	ありたい 教職員像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特別支援教育の専門性が高く、子どものニーズや障がいの特性に応じた教育活動や地域支援を推進する教職員</li> <li>・ 対話・会話を大切にし、組織力の向上をめざす教職員</li> <li>・ 防災対策や防災教育、人権感覚あふれる学校づくり等、子どもたちが安心・安全に過ごせる学校づくりを推進していく教職員</li> <li>・ 関係機関と連携し、就学前から卒業後までの一貫した指導と支援を推進していく教職員</li> </ul>

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p>〈児童・生徒〉 様々な体験や自立、社会参加に向けての教育 一人ひとりが活かされる仲間づくり</p> <p>〈保護者〉 児童生徒一人ひとりのニーズに応じた自立と社会参加に向けての教育 進路先の確保</p> <p>〈地域の学校・関係機関〉 特別支援教育のセンター的機能</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<p>〈保護者〉 児童生徒一人ひとりのニーズに応じた安心・安全な教育</p> <p>〈地域の学校〉 交流を通しての共生・共学の理解と推進 地域の特別支援教育のセンター的機能</p> <p>〈地域の関係機関（企業・福祉施設等）〉 情報提供や障がい者理解に向けた支援</p>	<p>〈保護者〉 目指す学校づくりへの理解と協力</p> <p>〈地域の学校〉 交流を通しての様々な活動や体験 施設・設備の効果的な活用、相互利用の促進</p> <p>〈地域の関係機関（企業・福祉施設等）〉 現場実習の受け入れ及び就労実現 職業授業への情報やノウハウの提供 放課後等の利用、卒業後の入所 就労や施設利用に関する情報の提供 社会活動への参加や進路先の確保、卒業後の支援</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 来年度は「職業」のしゅくみが大きく変わるため、生徒及び保護者も不安があると想定される。そうした不安を払拭するためにも保護者等との情報共有を綿密に行ってほしい。</li> <li>・ 児童生徒の卒業後の生活をふまえて、企業や福祉施設で働く（生活する）姿を想定して、日々の指導体制を考えてほしい。</li> <li>・ 防災教育については、学校だけでなく、家庭でも取り組むことが必要であると考えるので、児童生徒が学んだことを連絡ノートや通信等で家庭に丁寧に伝えるなどの積極的な情報発信を行ってほしい。</li> <li>・ 教職員がゆとりのある勤務ができることが、児童生徒の成長にも有効であると考えるので、「ほっとできる場所や時間」に関する満足度が上がるように、いろいろな取り組みを考えてほしい。</li> </ul>	

(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア教育の視点に立った一貫した教育内容の充実や地域等と連携したキャリア教育を推進する必要がある。</li> <li>・大地震の発生が予想されることから、大規模災害に備えた防災対策、防災教育の充実を図る必要がある。</li> <li>・命を大切にし、人権感覚あふれる人権教育の視点で教育活動を捉え直す必要がある。</li> </ul>
	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校と分校があり、本校には4つの教育課程があることから、本校・分校間や校内での連携や情報共有が必要である。</li> <li>・専門性の向上を図るとともに、特別支援教育におけるセンター的機能を果たす必要がある。</li> <li>・行事や業務内容、校内組織の見直しを推進し、総勤務時間の縮減に向けた取り組みを推進していく必要がある。</li> </ul>

### 3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア教育の視点に立った計画的で一貫したキャリア教育を推進する。</li> <li>・大地震等を想定した防災対策、防災教育を推進する。</li> <li>・人権感覚あふれる児童生徒の育成のため、人権教育を推進する。</li> <li>・自他を大切にし、命を尊重する態度をはぐくむため、命を大切にする教育を推進する。</li> </ul>
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校全体で情報や課題の共有を図り、学校の組織力を高め、問題解決に取り組む。</li> <li>・専門性の向上を図るため研修を推進することで、児童生徒のニーズに合った指導・支援を行うとともに、特別支援教育のセンター的機能を果たすため、地域の学校や関連機関と協働し、効果的な支援を高める。</li> <li>・学校運営の効率化を図り、総勤務時間の縮減に努める。</li> </ul>

### 4 本年度の行動計画と評価

#### (1) 教育活動

項目	取組内容・指標	結果	備考
○キャリア教育の推進	<p>○キャリア教育プログラムの改訂版の完成、各学部各課程のシラバスの完成、授業実践</p> <p>【活動指標】</p> <p>①改訂版キャリア教育プログラムを実践活用により、修正意見を2学期末に集約し検討する。(キャリア教育推進委員会)</p> <p>②キャリア教育の目標と関連づけた各学部各課程の現行シラバスを改訂し、整理を行う。(教務部)</p> <p>③「杉の子キャリア教育プログラム」を活用し全クラスで授業実践を行う。(研修部)</p> <p>【成果指標】</p> <p>③ ② 年度内に完成させる</p> <p>③ 実施率100%をめざす</p>	<p>①キャリア教育プログラムを指導案に反映させ授業活用を行った。また知的肢体ともプログラムを見直し修正を行った。知的は分校とも検討を行い両校系統性一貫性のあるものになった。</p> <p>②シラバスへのキャリア教育プログラムの能力領域や観点の記入の仕方を検討し、サンプルをいくつか作って反映させた。県に記入方法の確認をしている最中のため、完成には至っていない。</p> <p>③全学部でキャリア教育プログラムを活用し、授業実践を行った。</p>	
○防災教育の充実	<p>○大地震を想定した防災学習、火災と地震を想定した訓練の実施、情報発信</p> <p>【活動指標】(総務部)</p> <p>児童生徒の防災学習(起震車体験含む)3回(各学期)、火災と地震を想定した訓練3回、スクールバス引き渡し訓練1回を行う。</p> <p>防災に関する取り組みの様子を学校だよりに年間3回掲載し、情報発信を図る。</p>	<p>・防災学習を3回、火災と地震を想定した訓練を3回、スクールバス引き渡し訓練を1回実施。防災に関する取り組みは3回学校便りに掲載し、情報発信を行った。当初計画した指標を100%達成することができた。</p> <p>保護者対象の満足度アンケートで</p>	

<p>○命を大切に する教育 の推進</p>	<p><b>【成果指標】</b> ・実施率100%をめざす ・保護者アンケートで満足度85%をめざす</p> <p>○「一人ひとりの違いを知り、認めあえる集団づくり」「自分らしさに気づき、自己肯定感を高める」ことを目指した授業実践、事例報告</p> <p><b>【活動指標】</b> (人権交流部) かけがえのない自分、かけがえのない命について全クラスにおいて授業等で取り上げ、杉の子人権週間に、「子どもとこんなことをしました」(人権教育実践事例フォルダ)で報告する。</p> <p><b>【成果指標】</b> 児童生徒の変化(自らの発信やIメッセージの増加、衝動のコントロール)と教職員の意識の変化について教職員アンケートを行い、効果ありの回答60%をめざす</p>	<p>は88%の保護者が満足、もしくはおおむね満足と回答し、目標とした85%に届いた。</p> <p>・各学期に学校全体で集中的に人権学習に取り組む「杉の子人権週間」を設けた。その結果、年度末人権アンケートでは93%の教職員が、児童・生徒に何らかの効果があつたと回答し、目標を達成した。具体的な変化として、「周囲の児童・生徒とのコミュニケーションを楽しめるようになった」という回答が、40%と多かった。</p>	
--------------------------------	--	---	--

改善課題

<p>○キャリア教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度決定した「杉の子キャリア教育プログラム」を知的肢体それぞれの部門で授業実践に活用する。教育計画等との連携の定着を図る。(キャリア委員会・研修部)</li> <li>・来年度は、キャリア教育の目標と関連づけた各学部各課程の現行シラバスを改訂し完成させる。(教務部)</li> </ul> <p>○防災教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎年行う訓練と隔年で行う訓練にわけ、様々な訓練を実施できるように取り組んでいく。(総務部)</li> </ul> <p>○命を大切に する教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の変化は、教職員の目を通して推し量ることで評価した。さらに客観的に子どもの変化を知るため、教師の視点、目線をどこに置くのかを明らかにしたい。日常的な人権教育活動の実践記録を杉の子ネットの「子どもたちとこんなことをしました」というフォルダに残す取組と「杉の子人権週間」を設け、全校で取り組む教育実践については、継続する必要がある。(人権教育推進委員会・人権交流部)</li> </ul>
---

(2) 学校運営等

項目	取組内容・指標	結果	備考
<p>○資質向上の 取り組み</p>	<p>○専門性向上の校内講座、情報研修会の実施</p> <p><b>【活動指標】</b> ・学部研修、教育部門別研修等を年間12回実施する。(研修部) ・校内講座を年間14回実施する。(支援部) ・情報研修会を5回実施する。(情報部)</p> <p><b>【成果指標】</b> 事後アンケート、教職員アンケートで満足度75%をめざす</p>	<p>学部研修10回(内2回は2・3月に実施)、教育部門別研修会2回を実施した。満足度は96%であった。</p> <p>・校内講座を4月から1月まで14回実施した。のべ220名参加があつた。講座の資料をその都度、全職員に回覧。参加者満足度100%であった。(支援部)</p>	

<p>○情報共有による組織力の向上</p>	<p>○石薬師分校・鈴鹿病院との連携</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育部門別研修会（B 課程） 年間 2 回開催する。（研修部）</li> <li>・定期的な合同分掌会の実施</li> <li>・学校だより（本分合同）を学期 1 回発行する。（教頭）</li> <li>・定期的な進路だよりの交流（進路部）</li> <li>・病院との連絡会、生徒指導懇談会を定期的に開催する。感染症にかかる情報共有を行う。（保健安全部）</li> </ul> <p>【成果指標】</p> <p>実施率 100% をめざす</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別を含み情報研修会を 10 回実施。延べ 43 人の参加があった。実施後毎回アンケートを採り、参加者満足度 100% であった。（情報部）</li> <li>・教育部門別研修会は 2 回実施した。</li> </ul> <p>合同分掌会は計画的に実施できている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校だよりは年間 3 回発行した</li> <li>・本校 4 号、分校 3 号の進路だよりを発行し交流した。（進路部）</li> <li>・病院との連携は計画通りに実施できている。登校準備の在り方や集団感染防止について意見交換して改善につなげた。</li> </ul>	
<p>○情報提供による信頼の構築</p>	<p>○保護者が早期から進路について考える機会、障害者総合支援法に定められている様々な福祉サービスについて知る機会の設定。</p> <p>【活動指標】（進路部）</p> <p>保護者に希望を募り、1 人 1 時間程度の懇談会を設定し、福祉サービスの説明や、自宅近くにある施設の確認、本校、石薬師分校の進路指導の計画など説明する。</p> <p>【成果指標】</p> <p>懇談会終了後のアンケートで満足度 80% をめざす</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・希望者を対象に 1 名につき 1 時間程度懇談を実施した。参加者は小学部 8 名、中学部 12 名の参加を得た。（進路部）</li> </ul>	
<p>○センター的機能の充実</p>	<p>○地域の学校や関係機関の方々を対象にした一日体験研修や杉の子実践夏季研修講座の開催</p> <p>【活動指標】（支援部）</p> <p>一日体験研修は、希望者のニーズに合わせ、6～11 月で参加者の希望を聞いて実施する杉の子実践夏季研修講座を 3 講座実施する。</p> <p>【成果指標】</p> <p>研修会後のアンケートで満足度 80% 以上をめざす</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6 月から 11 月までの期間に一日体験研修に 13 名の参加があった。満足度 100% であった。（支援部）</li> <li>・杉の子実践夏季研修講座にのべ 91 名の参加があった。満足度は 98% であった。（支援部）</li> </ul>	
<p>○働きやすい職場環境づくり</p>	<p>○健康で働きやすい職場環境づくりのために総勤務時間の縮減、職員の親睦を図る。</p> <p>【活動指標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 月一回の定時退校日の設定</li> <li>② 定例の会議を 1 時間以内におさめる。（職員会議、運営委員会、分掌会、学部会、課</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 毎月一回の定時退校日を設定した。（実施率 100%）</li> </ol>	

	<p>程会)</p> <p>③ オフサイトミーティングの開催 年 1 回 (1 学期末)</p> <p>④ 個別の指導計画等提出前、家庭訪問前、文化祭前の 3～5 日間は、学部・全体に関わる会議を設定しないノー会議デーを設ける。(年間 25 日)</p> <p>【成果指標】</p> <p>① 実施率 100%をめざす</p> <p>② 達成率 75%をめざす</p> <p>③ 実施率 100%をめざす</p> <p>④ 達成率 80%をめざす</p> <p>⑤ 時間外労働時間前年度比 15%減</p> <p>⑥ 休暇取得日数前年度比 1 日増</p>	<p>② 1 時間以内に終了した会議の割合 (7 月～1 月) 81, 4%</p> <p>③ オフサイトミーティングを 1 学期末に開催した。(実施率 100%)</p> <p>④ ノー会議デー 年間 26 日実施</p> <p>⑤ 時間外労働時間 昨年度比 15.4%減</p> <p>⑥ 休暇取得日数 H29(4～1 月)で H28(年間)とほぼ同じ日数取得できた。3 月末までに目標達成の予定。</p>	
--	--	---	--

### 改善課題

#### ○資質向上の取り組み

- ・今後もさらに教育現場の ICT 化が進んでくるため、教員が十分に対応できるよう、今後も情報研修会を続けていきたい。(情報部)
- ・研修内容が支援部企画のものの一部重なりがあり、来年度に向けて、研修会の回数や内容など、現在両部代表により検討をしている。(研修部)
- ・専門性向上のため、研修部と連携し、来年度も校内サポート支援講座を月 1 回程度実施していく。(支援部)

#### ○情報共有による組織力の向上

- ・両校の教育について、情報共有だけでなく、理解を深めるように研修会を主催した。これまでの取り組みにより 少しずつ理解は進んできている。来年度も引き続き、研修内容を両校で話し合い、少しでも充実した研修会になるように努力する。(研修部)
- ・進路だよりについては、2 学期末でポルトガル語訳も含めて本校 4 回、分校 3 回発行した。両校の進路便りを交流し保護者に配布した。今後も交流を続けていきたい。(進路部)
- ・各病棟とは登校準備や健康面に配慮した登校判断等、日常で具体的な問題点について今後も協議を続ける。業務内容や投薬指示の方法等、システムの変更にかかわることについては看護部長と協議の上、各病棟が統一した対応をしてもらえるように働きかけることが重要である。(保険安全部)

#### ○情報提供による信頼の構築

- ・PTA 総会で実施の趣旨を説明し、全校児童生徒の保護者を対象に進路相談会を行った。小学部 8 名、中学部 12 名の参加であった。実施後のアンケート調査では満足度 100%であった。今後も小学部段階からの進路指導を行っていく必要がある。(進路部)

#### ○センター的機能の充実

- ・一日体験研修は、来年度も希望者のニーズに合わせ 6 月～11 月に随時行い、案内は、ホームページに加え、詳しい案内を紙面でも発信していく。(支援部)
- ・杉の子実践夏季研修講座は、地域の学校や関係機関のニーズに応えられるよう、5 講座を開催する。(支援部)

#### ○働きやすい職場環境づくり

- ・定時退校日は計画通りに設定し、90%以上の教職員が退校した。
- ・会議時間を 1 時間以内にする取り組みは、定着してきた。内容の精選や会議運営の仕方をそれぞれ工

夫することで効率的に会議が行われている。その反面、意見を言いにくいと感じている職員もいるため意見集約の方法について検討していく必要がある。

- ・時間外労働時間は減少し改善が見られたが、過重労働を入力していない教員もいるためはっきりとした成果はわからない。休暇取得日数は3月末までに取得日数が増え、成果指標は達成されると思われる。しかしながら、休暇を取りにくいと感じている教員がいることや、長時間勤務の状況にある教員に偏りがあることなど課題が残っている。校務分掌、学部の係等における業務偏り、組織の見直しを通してさらに働きやすい環境づくりを推進していく必要がある。

## 5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	<p>特別支援学校の生徒は、一人ひとりの違いが大きく、<u>ゆっくりと成長していく子どもたちもいると思う</u>。スモールステップで丁寧な指導を心がけ、保護者と連携して取り組んでほしい。また、生徒の成長に合わせて親も成長していけるような支援を心がけてほしい。</p> <p>指導については、近年 IT 化が進んできており、特別支援教育の中でも様々な機器の活用が紹介されている。石薬師分校を卒業し、次の進路先でも、生徒たちが自分に合った機器が活用できるように地域への啓発も行ってほしい。さらに、感染症対策や防災教育についても、学校として組織的な取り組みを引き続き行ってほしい。</p> <p><u>本校と分校との連携は、授業見学などに引き続き取り組んでほしい。</u></p> <p>勤務時間の縮減は、喫緊の課題だが、会議は議論になると長くなることも理解できる。事前に内容等を整理して効率の良い運営を心掛けることで教職員の勤務時間を減らしてほしい。</p> <p>学校評価アンケートでは、保護者からの良い評価を受けている。今後とも保護者や関係機関と連携して生徒の成長に結びつけてほしい。</p>
---------------------	--

## 6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<p>今年度完成した「杉の子キャリア教育プログラム」において、分校との『学びの連続性』も意識して、それぞれの部門で授業実践に活用し、学校生活全般においてキャリア教育の視点を意識して指導に取り組みたい。</p> <p>防災教育においては、継続して訓練を行うことで、児童生徒が落ち着いて行動できるようになってきた成果を踏まえ、今後も初期対応訓練など繰り返し取り組んでいきたい。下校時における災害対応訓練では、実際に即した対応ができるよう、内容の検討を行い、マニュアルの精度を上げていきたい。</p> <p>命を大切に教育の推進では、「杉の子人権週間」等で必ずすべての学習グループで授業を行うこととし記録を残していくようにする。</p>
学校運営についての改善策	<p>資質向上の取組では、アセスメント等を通して児童生徒の実態把握を行い、児童生徒一人ひとりの課題、つきたい力を明らかにするとともに、教職員研修の充実を図り、専門性を高めていきたい。</p> <p>本校と分校の連携においては、小学部から高等部までの途切れのない支援のために、引き続き情報共有を行う。本校職員が分校の授業や行事を見学する機会を設けたり、共同の研修会等を開催したりして、キャリア教育の視点で高等部卒業後につながる支援について検討していきたい。</p> <p>働きやすい職場づくりにおいては、分掌業務、学部の係の見直しを行い、職員間の協力体制や、業務の偏りを見直し勤務時間の削減につなげていきたい。会議時間1時間以内は定着してきたが、意見集約方法の見直しについて検討していきたい。</p>